
忘れないよ

夢奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

忘れないよ

【Nコード】

N1640L

【作者名】

夢奈

【あらすじ】

咲羅はある日咲羅の学校、桜咲高校の転校生と出会う。その転校生と咲羅との思い出にある真実が隠されている。その真実とは！？

〈出会い〉

ねえ、直人。私ね直人との思い出忘れないよ。

あれは今から2、3年前のこと。

高校生の夏、私は、図書館で夏休みの宿題をしていた。すると、私の隣にスツと知らない男子が座ってた。

「ココ、あいてる？ 座ってもいい」

て、話しかけてきた。私は、「うん。いいよ」と言った。

この男子の制服を見ると、私の桜咲高校と同じものだった。この日私も制服を着ていたため、多分だけどこの子は私の制服を見て私の隣に座ったのだろう。

「君、佐々波咲羅ささなみさくらって言うんだ」

なんで私の名前を知ってるんだろう・・・
しかも、よくこんな難しい漢字が読めたな

「え？ なんで知ってるの」

と問いかけると男子は

「だって、教科書に書いてあるじゃん」

「あ・・・」

当たり前のように答えた。この男子の名前なんていうんだろう気になる。でも、あんたの名前は？ なんて聞けないしまず、なんて言えばいいのよ。あんたはダメだよねやっぱ・・・

「俺、神原直人。桜咲高校の2年E組。よろしく」

神原直人か・・・カッコイイ名前だな。2年生か。じゃ、私と同じクラスだ。って、こんな子いたかな

転校生？ 夏休み中に？ そんな分けないよ。なんかの間違いだよ
それにしても神原くん、爽やかだな。てか、私、好きになっちゃった
カモ・・・

「あ。やば」

忘れてた。明日から学校じゃん。どうしようまだ、宿題が終わってないよ・・・

「どうしたの」と優しいそうな神原くんは、声をかけた。

「なんでもないよ」とちよつと焦ったぎみに言っていると神原くんは、「平気じゃないよね」とすぐに見抜かれた。意外とするどい。なんか、イイカモ・・・

「咲羅ちゃんって呼んでもいい？」

咲羅ちゃんって、あんまり呼ばれたことないかも。

『ちゃん』っていうよりも『さん』とかかなそれか、呼び捨て。

まあ、でもいいっか

「うん。いいよ」

こんな話もいっぱいして、1日が終わる。

明日、神原くんに会うのが楽しみだな

くどきく

翌日、私は1秒でも早く神原くんに会うためにいつもより5分早く家を出た。

すると私の目の前に、神原くんがいた。これはキセキなのだろうか？

「か・・・神原くん」

とつい声が出てしまった。恥ずかしい・・・こんな私を許して。

「あっ、咲羅ちゃん！ おはよ」

神原くんは、キラキラと輝いた笑顔で答えてくれた。この時の神原くんは、幼く見えた。可愛かった。こんな風に見えたのは私だけなのだろうか。今私は、本当に神原くんのことが好きだ。大好きだ。もっと早く、神原くんと出会いたかったな。もっと、いろんな話をしたかったな。

「今日は、何をするんだろうね」

と神原くんから、話をかけてきた。今日、することなんて分かりもしない。

「なんだろうーねー」

と適当なことを言った。

話していたら、すぐに学校についてしまった。もっと、話があったな。学校に着けば、久しぶりに会う友達とたくさん、話をした。「こないだねー〇〇〇の大会があったんだー」とか「嵐のコンサート行っただよー」とか、みんなの夏休みについて語る。やっぱり、みんなという方が楽しい。

「咲羅ちゃん、来てー」

と神原くんが言った。寂しいのかな？まあ、神原くんにとっては全く新しい世界だもんね。

「咲羅ーあれ、誰??? まさか、彼氏???」

「ちっ違ふよ!」

あーどうしよう、なんて説明すればいいの？

「咲羅、行こ」

「あの、咲羅の彼氏ですか??」

「んまあ、そうかな?」

神原くん、なんてことを言うの?でも、神原くんが彼氏であってほしい。神原くんが彼氏だったら、どんなにいいことやら。神原くん、こんなこと言って、後々どうするの?

神原くん……

「咲羅、行こう」

「うん」

チョーヤバイ、だって、神原くんが「いこ」なんて、もうやばいよ。あなたは、泥棒だ。私の心を奪った。

神原くん、私の彼氏になってさ結婚しよう。

「咲羅、俺の彼女にならねえか?」

え……これは告白なのかな……それとも聞き間違い?きつと聞き間違いだよな?

うん。そうだよ、聞き間違い。

「咲羅?聞ってる?俺、本気なんだけど。」

本気?でも、出会ってまだ2日だよ。神原くん、これは早すぎじゃない?私は、早いと思うけどな。

「咲羅、好きだ。俺の彼女になってくれ」

神原くんて、クールでカッコイイ所もあるし、幼くて可愛い所もあって、好き。

付き合いたいけど、まだ早い気がするな。早いよ、

「あと1週間待って。」

今すぐにも付き合いたいけどでも、ダメ。だって、早いから。いくら私の心を一瞬で奪い取っても2日で『好き』なんて言われても困るよ。好きな気持ちは、分かるよ。私も好きだから。

ごめんねっ、神原くん。また1週間後気持ちが整ったら私から言うにくるから、それまで待っててね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1640/>

忘れないよ

2011年10月7日01時59分発行